

令和4年度 学力向上推進計画

(尚巴志マラソン、復習タイム、運動会 削除)

1 はじめに

本校では、児童一人ひとりの将来や幸せのために学力を保障しようと、キャリア教育の視点を踏まえた学力向上を掲げている。本校の教育目標である「かしこく、やさしく、たくましく」を具現化した取り組みが実を結びつつある。それは、全国学力学習調査の質問紙からもうかがえる。「先生は、あなたのよいところを認めていると思いますか」では県に比べ高い数値であった。教師と児童の確かな信頼関係が構築されていることが本校の「確かな学力」の基盤となっていると考えられる。

本校の学力に関する実態として、「かしこく」では、諸学力調査において国語が全国平均を超えている。今後も児童に「わかる授業」を提供するためにも、県学力向上推進プロジェクトを基に「授業改善」や「学びの確かめ」、「朝学習」の取り組みに重点をおく。

「やさしく」では、「いじめと不登校」を出さないことを目標に掲げ、Q-Uテストや楽しい学校生活を送るためのアンケート等の実施・活用し、居場所のある学級づくりに取り組むことで、いじめや不登校の未然防止と初期対応に努めることができた。

「たくましく」では、一学期の新体力テスト、二学期の**体育発表会**、三学期の**体力向上なわとび月間**と、年間を通して体力向上に努めてきた。同時に、広々とした校庭で伸び伸びと遊んだり、運動に親しむ場も設定している。また徒歩登校の奨励をはじめ、泳力の向上や持久走の奨励にとりくんでいる。

沖縄県児童生質問紙では、児童質問紙(1)の「自分には、良いところがあると思いますか」では、「そう思う」「ややそう思う」と回答する児童は大きく改善されつつあるが、**まだ本校の目標達成数値に達していない**。また、友達の前で自分の考えや意見を発表することを苦手とする傾向にある。これら課題を改善するためにも、学力向上の取り組み重点を「授業改善」におき、系統的・継続的な授業改善を支える方策を明確にし、学校全体で同じベクトルを持って推進することで、確かな学力を育むことができると考える。

本年度も引き続き、児童同士・児童と教師の確かな信頼関係を築き、南っ子一人一人に「確かな学力」を向上させることを目標に、チーム大南として取り組みたい。

2 令和4年度学力向上推進目標

(1)

南城市学力向上推進目標： 知・徳・体の調和の取れた児童の育成
～「確かな学力」をもち、主体的に他者と協働して夢や希望を持って生きる子～

総括目標： 児童一人一人に「生きる力の」の基盤となる
「新しい時代をつくるために必要とされる資質・能力」をはぐくむ

推進目標 令和4年度：全国学力学習状況調査において小学校全科目全国平均正答率の維持

(2) 加えて、本校児童の具体的目標として、以下の3つを達成する。

【本校の達成目標】 ※沖縄県児童質問用紙と連動

① 「自分には、よいところがあると思いますか」で「当てはまる」を35%以上、「どちらかといえば当てはまる」をあわせると85%以上を達成する。

※R 3.11月平均（「当てはまる」28.6% / 「どちらかといえば…」52.8% 合わせて81.4%）

② 「学校に行くのは楽しいと思いますか」で「当てはまる」を50%以上、「どちらかといえば当てはまる」をあわせると90%以上を達成する。

※R 3.11月平均（「当てはまる」46.6% / 「どちらかといえば…」39.4% 合わせて86.0%）

③ 「物事を最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」で「当てはまる」を65%以上、「どちらかといえば当てはまる」をあわせると95%以上を達成する。

※R 3.11月平均（「当てはまる」62.2% / 「どちらかといえば…」27% 合わせて89.2%）

3 成果指標

(1) 全国学力・学習状況調査を指標とする。
 ○小学校全科目全国平均正答率の維持
 ○平均正答率30%未満児童の割合及び無回答率の減少
 (2) 1月に上記3項目（沖縄県児童生徒質問紙調査）の結果で、児童生徒の達成状況を把握する

学びのたしかめ (R 3年6月)
 ※6年は全国学調

学年	教科	国語	算数
3年	大南小	12.	13.8
	南城市	13.5	15
	県	14.3	15.9
4年	大南小	10.3	15.4
	南城市	11.6	16.6
	県	11.6	16.9
5年	大南小	15.5	15.8
	南城市	15	16.4
	県	15.1	17
6年	大南小	9.0	11.1
	南城市	9.1	11.2
	県	9.0	11.1

R 4年度は全国学力学習状況調査等の諸テストにおいて以下の項目を努力する。

①小学校全科目において県平均正答率に近づける。
 ②平均正答率 30%未満児童の割合及び無解答率の減少。
 ③児童質問紙の自己肯定感等に関する項目の数値の向上。

学びのたしかめ (R 3年11月)

学年	教科	国語	算数
3年	大南小	未実施	18.4
	南城市	未実施	18.8
	県	未実施	19.1
4年	大南小	未実施	16.5
	南城市	未実施	18.1
	県	未実施	19.3
5年	大南小	未実施	16.1
	南城市	未実施	16.8
	県	未実施	17.9
6年	大南小	未実施	13.8
	南城市	未実施	13.2
	県	未実施	14.5

4 達成目標実現への手立て

- (1) 沖縄県学力向上主要施策「学力向上推進プロジェクトⅡ」（令和2年度～令和6年度）及び「令和4年度島尻教育の基本方針」と本校の現状と課題を踏まえ「確かな学力」の向上ををめざし推進する。
- (2) キャリア教育の視点を踏まえ、児童に「学ぶ意義」や「働く意義」を実感させ「学ぶ意欲」を向上させる取り組みを推進する。
- (3) 全ての児童を尊重し、認め、受け入れ、教師と児童が共に成長していこうとする教育を推進（実践）する。
 （取組例）人権意識を高め、築くための言語環境の整備
 ・ていねいで、優しく、正しい言葉があふれる学校（教師が模範となる）
- (4) 主体的・対話的な授業、児童が主役の授業を推進（実践）する。
- (5) 特別支援教育の視点を踏まえ、教室環境の整備・授業のユニバーサルデザイン化等、児童一人一人に寄り添ったインクルーシブ型学級集団づくりを推進する。

5 具体的取り組み

□「沖縄県学力向上推進5か年プランプロジェクトⅡ」と関連付け、3つの視点「自己肯定感の高まり」「学び・育ちの実感」「組織的な関わり」、5つの方策（具体的取り組み）を通して、各学校の授業改善・学校改善を推進する。
 ※【視点1】を成果指標とする。

方 策	【視点1】 自己肯定感の高まり	【視点2】 学び・育ちの実感	【視点3】 組織的な関わり
○グランドデザイン及び視覚的カリキュラム一覧表の活用と見直し			
方策1 日常化する 【質的授業改善】	<input type="checkbox"/> 「カリキュラム・マネジメント」の充実で「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。 <input type="checkbox"/> 「学力向上推進プラン・プロジェクトⅡ」に基づく授業改善、他者と関わりながら問題解決に向かい「問い」が生まれる授業を目指す。 <input type="checkbox"/> 学ぶ意義・身に付けさせたい力の明確化、指導内容の吟味、指導方法の工夫・改善を行う。 <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びを意識した授業を構築する。		

		<input type="checkbox"/> ICTや視聴覚機器を効果的に活用したわかる授業の推進を図る。 <input type="checkbox"/> 学年会や教科部会、校内研修等を充実させる。
方策2	<p>そろえる 【組織的共通実践】</p>	<input type="checkbox"/> (全国学力・学習状況調査)や沖縄県学力定着状況調査「学びのたしかめ」を活用した実力調査等の結果を分析し、「授業における基本事項」や「問いが生まれる授業サポートガイド」等を活用して組織的に授業改善に取り組む。 <input type="checkbox"/> 学力向上マネジメントの推進。 <input type="checkbox"/> 教師が模範となった人権意識を高め築くための言語活動の整備・推進を図る。 <input type="checkbox"/> 学校経営ビジョンを共有した取組を推進する。
方策3	<p>支える 【組織的共通実践】</p>	<input type="checkbox"/> 豊かな心や確かな学力の育成に向けた取組を、特別支援教育の視点で再確認し、児童一人ひとりを大切にする教育を推進する。 <input type="checkbox"/> 児童を「ほめる」「認める」言葉かけや児童が考えて行動できるような言葉かけをすることにより児童のよさを積極的に評価し自己肯定感を育む。 <input type="checkbox"/> 学習支援員・特別支援教育支援員を効果的に活用し、個に応じたきめ細かな指導を進める。 <input type="checkbox"/> 将来の夢や希望を形づくる学習で「なりたい自分」を広げ、様々な知識や技能を身につけ「なれる自分」を広げる。 <input type="checkbox"/> 「キャリアパスポート」の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・児童一人ひとりが自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりできるようにする。 ・「キャリア・パスポート」に学びのプロセスや自己評価を記述することを通して、小中高12年間の学びの履歴をつなぎ、自立した社会人・職業人の育成を図る。
4	<p>見通す 【学校組織マネジメント】</p>	<input type="checkbox"/> 学力向上年間サイクルの活用 <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントの実施
方策5	<p>つなぐ 【学校連携・地域連携】</p>	<input type="checkbox"/> 保幼小中が連携し系統的・継続的な授業改善を推進する。 <input type="checkbox"/> スタートカリキュラムの活用を通して、保幼小から小学校教育への円滑な移行を図る。 <input type="checkbox"/> 地域教育資源や本物に触れる活動を通じた取組で「学ぶ意義」や「働く意義」を実感させる。 <input type="checkbox"/> お仕事調査隊、職場見学を教科等の内容と繋ぐことで取組の充実を図る。 <input type="checkbox"/> CSの導入と充実

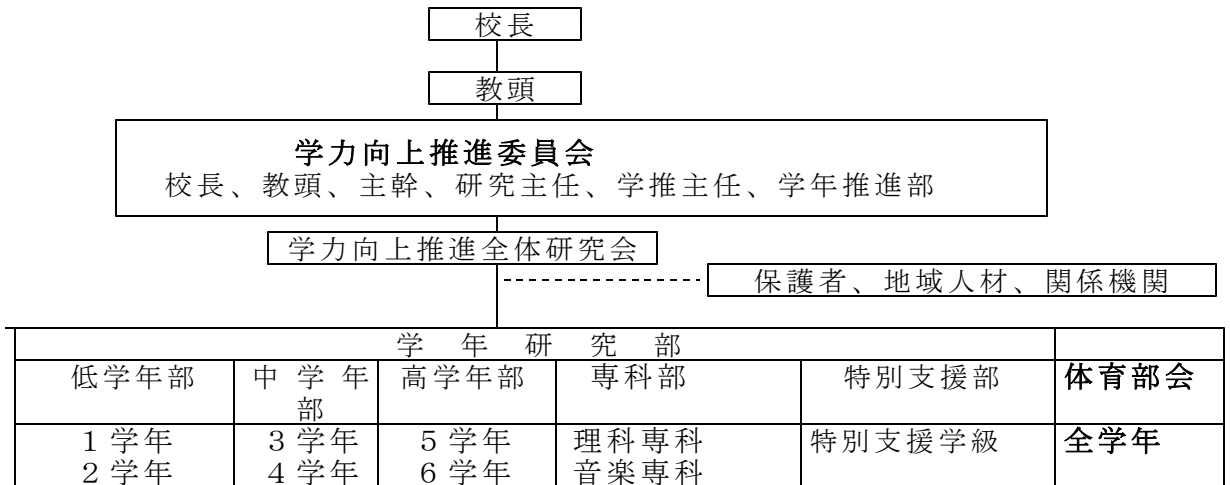
言 価

①小学校全科目全国平均正答率の維持	
②正答率30%未満の児童生徒の割合及び無解答率の減少	
③児童生徒質問紙の自己肯定感等に関する項目の数値の向上 「当てはまる」35%以上、「どちらかといえば当てはまる」を合わせると85%以上を達成	
④児童生徒質問紙の学習意欲等に関する項目の数値の向上 「当てはまる」50%以上、「どちらかといえば当てはまる」を合わせると90%以上を達成	
⑤学校質問紙の達成感等に関する事項の数値向上 「当てはまる」65%以上、「どちらかといえば当てはまる」を合わせると95%以上を達成	

【残った課題】	【令和4年度の対応策】

1 組織と活動内容

(1) 学力向上推進体制



(2) 役割と活動内容

① 学力向上推進委員会

- ・学力向上推進計画を立案し、実践するための推進を図る。
- ・学力向上推進に関することについて、連絡調整に当たる。
- ・学力向上推進プロジェクトの推進。

② 学力向上推進全体研究会

- ・全体的な計画や基本的な内容について共通理解を図る。
- ・学力向上推進の具体的な取り組みの確認。

③ 学年研究部

- ・沖縄県学力向上推進プロジェクトに添った授業計画、実践、評価を実施する。
- ・学年「教材研究ツール」の作成・活用。
- ・学力調査等の結果分析。
- ・各種資料の活用。
- ・学校 OJT（教員の人材育成）の推進、同僚性の構築。
- ・支持的風土をつくる学級経営の充実。

◎ 学推主任

- ・全国学力学習状況調査の結果分析
- ・学力向上推進計画の企画・立案

◎ 校内研修主任

- ・校内研修計画の企画・立案

◎ 体育部会

- ・全国体力・運動能力調査や体力テストの計画と実施